

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：林 由里
(松江市立美保関中学校)

編集：広報部

VOL.44 2012.3.3 (雛祭号)

発行責任者 福井義信 (川本中学校)

島事研ホームページ

<http://www.oh-net.com/~kenjiken/>

爽

SOU

【目次】

- ▶ 今年度を振り返って (副会長)
- ▶ 奥出雲町の取組
- ▶ 学校事務セミナー参加者の感想
- ▶ 人権コーナー
- ▶ 「島根県教育庁総務課に勤務して」
- ▶ 研修あれこれ
- ▶ 事務歳時記
- ▶ 島事研アクションプラン
「授業を観に行こう」
- ▶ まんが「フーちゃん」
- ▶ 編集後記



今年度を振り返って

～ 新たな取組の2年次 ～

副会長 松林智照

新たな取組の2年次としてスタートした今年度、島事研は、昨年度に引き続き「学校財務と教育課程」をテーマとした研究活動の推進と、世代交代に対応した事務職員育成のための様々な取組を進めることを重点方針に掲げ、1年次の活動を検証し、会員の皆様のご意見も参考にしながら活動を行ってきました。

1 「学校財務と教育課程」をテーマとした研究活動の推進

“財務マネジメント能力の向上”に重点を置いた活動として、昨年度、研究部から提案をしました目標達成の活用シートの取組を、今年度も継続して行いました。実践による成果と課題の報告が多く寄せられるよう期待しています。

11月に松江市で行いました第42回研究大会では、研究委員会による全事研鳥取大会発表報告と、3年ぶりとなる地区担当の研究発表を行っていただき、それぞれの研究や実践を共有しあう場とすることができました。また2月のセミナーでは、財務マネジメント力を身につけることを目的に、一日を通して、集中的に、演習形式で、というこれまではなかったスタイルでの研修を行いました。いずれもこの2年間の締めくくりという意味で企画をしました。ぜひ今後の行動に繋げていってほしいと思います。

2 事務職員育成のための取組

島事研は、事務職員の役割と目指す姿を明らかにし、研究大会やセミナーを通じ、計画的な研究・研修活動を進めています。しかし、急激な世代交代が進行する中においてそれだけでは不十分であり、育成研修の充実が望まれます。特に採用から5年程度の事務職員の指導体制の確立と事務グループ制でのリーダーの育成は急務であると思われます。

そこで、島事研では今年度も、島事研として考える目指す事務職員の役割と必要な能力を示し、県の育成方針と具体的な研修案を作成し、県教育センター・県教委に対し提案し話し合いを行っています。

以上のように島事研では、昨年「行き場所を示す提案」から、今年度は「実践」をキーワードに活動を行って参りました。全事研鳥取大会での発表で島事研研究委員会は「この実践が各地における研究活動の一助となることを願うとともに、今一步踏み出せずにいる学校事務職員が第一歩を踏み出すきっかけになることを期待します。」と最後に結びました。まさに“実践を”ということです。

また、今年度も継続して行いましたアクションプランの発信(学校財務ウィークの取組&授業を観に行こう)も少しずつ成果が表れてきています。今後はもっと多くの皆さんが、さらに一步を踏み出して、積極的な実践を重ねられることを期待しています。そして、それらを共有化していろいろな実践から学ぶことにより、島事研ビジョンに示す目指す事務職員像の実現に繋がっていきますように願っています。



奥出雲町 学校事務共同実施の取組

共同実施会 主任 響 芳秋

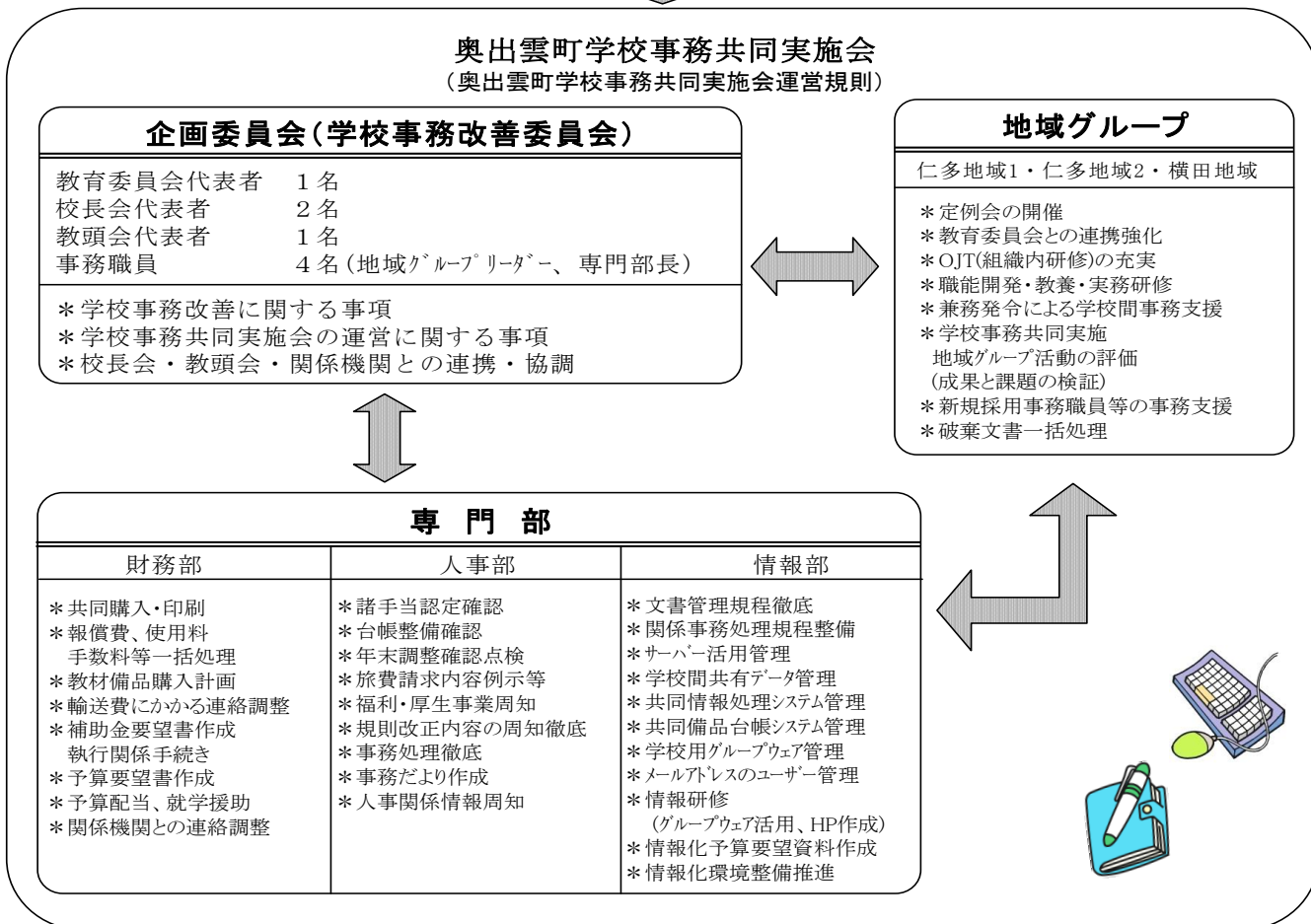
平成16年度から横田中学校に「きめ細かな学習指導や教育の情報化の支援等のための事務部門の強化対応を行う学校への事務職員の配置」を受け、旧横田町小中学校で「学校事務共同実施」が始まりました。同時に「横田町学校事務共同実施協議会の設置に関する要綱」が設置され、4部制（人事・情報・財務1・財務2）により学校事務共同実施を行ってきました。学校事務の効率化・平準化を図り、「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」、「教員の事務負担の軽減により教員が子どもたちと向き合い、きめ細かな指導を行えるための時間を確保」することを目的とし、活動を展開してきました。平成17年3月には、旧仁多町と旧横田町の2町が合併し、奥出雲町の小中学校数は13校となりました。合併後、専門部（財務・人事・情報）を3部制に改め、あわせて小中学校を3地域グループに分けて「学校事務共同実施」を開始しました。その後「学校事務共同実施」の円滑な運営を図るため「奥出雲町立小・中学校学校事務共同実施会運営規則」を設置しました。

昨年度からは、地域グループの活動を充実させ、地域グループ内の学校の規模や校種の違い・経験年数などによる事務量の差が共同実施を行うことにより解消され、さらなる事務の平準化が推進されています。



組織と 取組概要

奥出雲町学校事務共同実施協議会 (奥出雲町学校事務共同実施協議会の設置に関する要綱)	
(構成) 奥出雲町教育委員会 奥出雲町小・中学校の校長 奥出雲町教頭会代表者 奥出雲町小・中学校の事務職員	(役員) 会長 教育長 副会長 仁多郡校長会長 主任 事務リーダー 副主任 事務リーダー



『共同実施をうまく進める方法』

奥出雲町立高田小学校 校長 門脇 進

遡ること十余年、「学校事務・業務の共同実施を推進するための方策を検討すること。」(平成10年9月中教審答申)以来、共同実施が全国各地へ広まりつつあるのは周知のとおりです。併せて、事務主幹や事務リーダー等の職制改革、「事務長をおくことができる」との学校教育法施行規則の改正など、怒濤の如く押し寄せる大波をどうにか乗り越えて、ここ数年はようやく足が地に着いてきたような気がします。

この大変革の中で特に私の目を引きつけたのは「事務の共同実施による教職員配置の実践的調査研究事業の実施について」(平成18年5月文科省)です。それには「調査研究を委託する条件」として「新たな学校事務の業務内容と事務職員の役割の例」に「学校のトータルプロデューサーを目指す新しい学校事務職員像の構築」とあるのです。“トータルプロデューサー”……何とも心地よい響きではありませんか。(文科省もなかなかやるなあ)名実共にこうありたいものですね。もし、今、やろうか、やるまいか、二の足を踏んでいる懸案事項があれば、この言葉をその心に留め置いていただければ幸いです。私たち管理職はいつでもその背中を強く押してあげましょう。

さて、ここで“共同実施のコツ”について、鳥取県南部町の学校事務職員だった石井宏美氏(現在は鳥取県男女共同参画センター勤務)の講演から、いくつかご紹介しましょう。(他にもたくさんありますが、紙面の都合で今回はごく一部だけ……。)

- 気後れしない。堂々と。共同実施は当たり前。
→どんどん「共同実施」と言いましょう。
- 楽しそうにやる。
→人はそういうところに寄ってくるよね。
- 誰でもいつでもウェルカム。
→ネットワークはこうして広がる。楽しく広げる人間関係。
- どこでも誰でも体当たり。
→結構みんな理解あるよ。
- 人の良さを認める。
→これくらいのキャパの大きさは持とう。
- とりあえず乗ってみる。
→自分の考え、自分の判断なんて、たかが知れてる。
- 「できない」と口にしない。
→人の意欲を損なうことだけはやめよう。
- 相談、相談、相談、みんなの知恵を借りましょう。
→三人寄れば文殊の知恵。

どうです？何か力が湧いてきたって？そうそう、その調子ですよ。Take it easy.

最後に、奥出雲町の共同実施と有能多才な事務職員の方々に出会えて最高に幸せです。感謝！(Adding for their honor, ほんわかとした幸せではなく、毎日が切磋琢磨の充実した幸せです。)



奥出雲町学校事務共同実施会の取組

奥出雲町教育委員会教育長 安部 隆

平成16年4月、文部科学省指定「きめ細かな学習指導や教育の情報化の支援等のための事務部門の強化対応を行う学校への事務職員の配置」事業が、旧横田町の横田中学校を拠点校としてスタートした。主なねらいは、学校事務の適正化・効率化を推し進めること、教職員の負担軽減を図り、学校教育活動を支援することである。現在は、3つの地域会(横田・仁多1・仁多2)と3つの事業部会(財務・人事・情報)を構成し、地域の実態を踏まえた事業を展開しており、県下に誇る取組であると自負している。

特に評価すべきことは、【財務部】:①町内統一学校予算要望書の作成 ②各種大会へのバス輸送計画立案 ③共同印刷・備品購入業務一括処理【人事部】:①諸

手当・年末調整等の情報提供 ②「共同実施会たより」の発行 ③旅費請求サンプル等の作成【情報】:①ケーブルビジョンによる学校行事の情報提供 ②学校ホームページ更新への取組 ③教職員用パソコン等の管理【地域会】:①横田・仁多地域グループ内小中学校間双方向での支援体制の強化 ②校長会・教頭会・教育委員会等との連携強化 ③新規採用職員の研修支援及びグループ内研修等である。

それぞれに、学校事務職員個々の特性を生かしながら創意工夫し、協力して事業を展開している。これからの課題は、この一体感を継続することと情熱と努力によって生み出された余裕や時間が有効に活用され、教師と子どもがゆとりをもってふれあう姿が増え、子どもも教職員にも笑顔が増えてくるようにすることであると考えている。



島根県 学校事務セミナー

2月7日
ニューウェルシティ出

- ◇ 講義 「学校財務を通して学校づくりを考えよう」
～学ぼう 学校財務マネジメントの進め方～
講師 京都教育大学大学院 連合教職実践研究科
教授 竺沙知章
- ◇ 行政説明 島根県教育センター総務グループ課長
右田 益子

参加者の感想

学校に求められていることや、地域の信頼に応えるために何が必要か、など組織マネジメントを取り入れることでわかりやすく説明していただきました。今後、地域との渉外調整や教頭と異なった視点で校長を補佐することなども意識して日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。また、グループで演習を行うことで他地域の方の話を聞くことができ、とても参考になりました。行政説明では、普段関わりはあるがわからないことの多い教育センターの組織などの話を聞くことができ良かったです。

海士町立海士中学校 吉田 保

島根県の事務職員の方々のお話を聞くことができ、また優しさや温かみに触れることができたことがとても嬉しかったです。講義の内容についても、自校ではどうか、様々なケースを当てはめて考えながら聞くことで、普段の自分を振り返ることができました。機会があれば是非また参加させていただきたいと思えます。

山口県光市立島田小学校 山本ひとみ

竺沙教授の学校財務と組織マネジメントについての講演、大変勉強になりました。現在1年目ということもあり、ただ目の前の仕事にあっぴあっぴしている最中、マネジメントなんて絶対無理!!などと考えていました。ところが、実際に自校のミッションを多方面から俯瞰考慮(ふくかんこうりょ)し、筋道だててお金の流れを考えるとということは、頭の中が整理され、ただ漠然と仕事を進めるよりも目的や方法がはっきりする最良の方法だと気づかされました。目の前だけに焦点を当ててばかりでは、私たちが一体何のために仕事をしているのかという大事なことすら見失ってしまうところでした。今日の講演で得た知識・考え方を、少しでも子どもたちの役に立てられるようがんばっていきたく感じました。

松江市立佐太小学校 佐伯圭一

今年度の採用で、自校のことでまだまだ見えていない部分が多い状態で、自校に期待される役割といったもの考えることができずにいませんでした。しかし、そこを意識していくことで、今後、事務処理一つをとっても何かしらの変化を加えることができるのではないかと思います。

奥出雲町立阿井小学校 堂端昌志

今回、セミナーに参加しようと思ったのは、教育委員会の業務を行う上で最も重要である、事務職員の方がどのようなことを研修で学ばれていて、どのように学校で生かされておられるのかを知る必要があると強く感じたためでした。今回以外にも、郡内の事務職員さんの研修にも参加しましたが、内容としてはどちらも学校経営の在り方、マネジメントの進め方をどのようにするべきかといったものでした。

学校は保護者、地域のニーズにこたえるものであるという点で、どちらの研修会も一致しており、事務職員の方が重要視されている点がよくわかりました。

私は学校現場の最前線には残念ながら立つ立場ではありませんが、今回のセミナーで学習した点を踏まえ、最前線に立つ、学校事務職員の皆さんのお手伝いできればと思います。これからもコミュニケーションを大切にしながらもよりよい学校づくりの一端を担っていきたく思います。

美郷町教育委員会 学校教育係係長 岩谷知広

午前中PDCAを利用して「自校のミッション検索」をして発表しました。午後はグループで一緒に学校のミッションに添った学校予算書づくりをしました。私の学校では予算要求のシステムもなく、与えられた予算をほぼ前年度の実績をもとに配分をしていましたが、先生が言われた「学校のミッション、ビジョンの実現」→「重点化と共有化」→「資源の集中」この考えを一番に考え予算配分を考えなくてははいけなかったと反省しました。

益田市立高津小学校 小川紀子

人権コーナー

「子どもの人権」

益田市立西益田小学校 日高幸枝

わが子が小学校に入学した当時、元気な「ピカピカの一年生」を期待していた私に学校から連絡があった。どうやら、体育の時間は校庭の隅から皆を眺め、給食は職員室。授業中は好きな本を読んでばかり・・・という生活だということがわかった。どうして、他の子どもと同じようにできないのか？学校の職員でありながら、そんなわが子の状態を受け入れることができず、毎日のように帰ってから一日の様子を聞くようになってきた。「集会には参加したのか？」「誰と給食を食べたのか？」などなど事細かに。私も話を聞けば怒りモードとなり、子どもからも私からも笑顔が消えていった。

ある時、学校へ様子を見に行く授業中にもかかわらず、わが子が歌を歌いだした。曲はSMAPの「世界に一つだけの花」。

♪それなのに僕ら人間はどつしてこつも比べたがる
一人一人違うのにその中で一番になりたがる
そうさ僕らは世界に一つだけの花 一人一人違う種を持つ♪

そのフレーズを聴いて涙が出てきた。保育園生活とは違う小学校生活とのギャップについていけず本人もどつしていいのかわからなかったのだらう。そんな自分を理解してほしい、見守ってほしい、と言っているようだった。

私は、子どもの気持ちを知ろうともせず笑顔までも奪ってしまったことを反省した。できないことを責めるのではなく、子どもの気持ちに寄り添ってあげることができたと思う。

あんなこともあったよね・・・と笑って話せるようになったその経験を忘れずに、仕事や生活に生かすことができたと思う。



島根県教育庁総務課に勤務して

島根県教育庁総務課 伊藤 豪芳



今年度の4月から、島根県教育庁総務課に配属され勤務しています。

総務課では、主に職員の給与に関わる仕事をしています。

給与・旅費は当然適正に執行されるもので、職員が安心して学校の教育活動に専念できる環境のために必要不可欠です。事務職員の重要な職務の一つだと思います。

今までは、手当、旅費について実績に基づき書類を作成し、提出するという作業を繰り返していました。

しかし、今までと環境が変わって、制度所管課勤務になり、給与・旅費の適正執行を指導する立場になりました。例えば、手当認定でわからないことがあれば教育事務所に質問をしていたのが、逆に、教育事務所から質問されるようになりました。

その度に、関係法令、条例、規則、通知集、手引きを読み込み、さらに事例集を参照しながら、制度に合致しているか確認しています。当然わからないことも多いですが、「学校の中で唯一の行政職員」だった現場とは違い、行政事務職員の目線でのアドバイスをその場でたくさんもらい、助けてもらっています。

総務課で勤務することになり、行政職員としての意識がより高まり、法規の大切さ（法によって拘束されているが逆に法によって守られている・何かをするには裏付け、根拠が必要ということ等）を学ぶことができました。また、複数の事務職員の中で仕事することは私にとって貴重な経験になりました。

今後、学校に近い事務局職員の強みをいかして、学校現場の課題克服のために関係諸機関と連携を取って職責を果たしたいと思っています。

研修あれこれ

「保護者との良好な関係づくり講座」報告

大田市立温泉津中学校 津田 耕一

講師：東京都立川市立第一中学校 校長 嶋崎 政男

東京の学校を 取り巻く環境

- ・東京都では平均して年間4, 5件のクレームが学校に寄せられる。大阪ではその3倍のクレームが寄せられている。
- ・東京都での2010年採用試験の倍率は1.0を割っている。
- ・東京都の教職員のうち訴訟保険に入っている教職員は約7割にのぼる。

感想

保護者との良好な人間関係をつくるにあたって、クレーム対応は初期の対応が重要だと知った。そのときに一番考えないといけないことは、保護者の気持ちに寄り添うことだ。こちらの言い分は後回しでもいい。保護者が何に不満・不安・心配を感じているのか、そこを掴むことが保護者と繋がる上で重要だと思った。

また、保護者は対面するべき存在ではなく、同じ目的に向かって協力する存在であるという認識をもって望むことが重要である。子どものために私たちがどのような役割を果たし、どのように連携していくことが大切か。そこを共通理解していきたい。

驚いたことは、法的な対応も止むを得ない事例があるということだ。私たち自身が法に守ってもらうことがあるかもしれない。その時に備えて自分達を守るための法律についても知識を持っていることが大切だということがわかった。

「誠意」ということばが心に残った。誠意とは形として見える行動でなくてはならない。

保護者からのクレーム対応

- ☆ 心理的事実は受け止めて、客観的事実は後回し
→ 保護者の不安な気持ち、心配等を汲み取る
 - ☆ 3つの「一つのリスペクト」
 - ① 一枚の名刺を渡す
 - ② 一杯のお茶を差し出す
 - ③ 一人は待つ（保護者を学校内で出迎え、見送りをする）
 - ・ 誠意を見せる（「誠意」とは「目に見える具体的な行動」金品は絶対渡さない）
 - ・ 打つ手がなくなったときには教育委員会や司法書士に助けを求める（司法書士はペアレント問題をよく取り扱う）
 - ・ 相手に優しくしてほしかったら、まず自分から優しくすること。
 - ・ 無理な要望（クレーム）をされた場合、予め規則化しておき、「本校ではそういった対応はできないというふうに決まっている」と対応する。それ以降も強要される場合は「強要罪」として訴える。
 - ☆ 面接の3原則
 - ① 人 目的の人のみに限定する（用のない人は別室対応）
 - ② 場 場所は学校に限定（ファミレス等にしない）
 - ③ 時 拘束時間は50分～1時間が限界。常識的な時間は18～19時ぐらい。夜遅くまで教職員を残すような要望は受け容れない。
- ※ 要求の肥大化を防ぐ



事務歳時記

久屋小学校
森山 訓

時雨れて 校門急ぐ 児童かな

十二月に入ると天候もぐずついでくる。朝から雨が降ったり、時には曇りもまじったりすることを時雨と呼ぶ。小学生は毎日半ズボンで元気に登校してくるが、校門のところまで来てしぐらられたりすると、あわてて走り出している。

書初めや 夢あふれたり 小学生

冬休みの宿題は書初めである。一月二日に書くのが書初めと言われているが、だいたい冬休みの終わりにあわてて書いている。新年の決意とまではいかないが、それに似たような文が書初めの言葉となる。まだ夢と希望にあふれた頃でもある。

春浅し 閉校式の 知らせかな

学校の統廃合が決まって、統合校舎の学校以外はいよいよ廃校となる。その中のひとつに、かつて勤務した学校が含まれていて、この三月に閉校式が開催されると知らせがくる。学校の統廃合が増え勤務する場も減っていく。時の流れでもある。

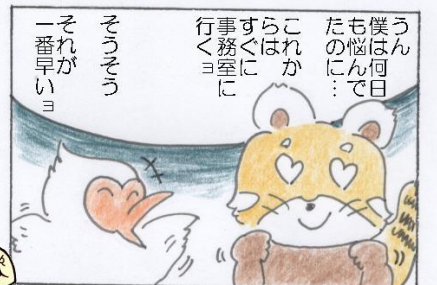
別れとは いつもこの時期 弥生尽

公務員の宿命の人事異動である。いつまでも同じ学校へ勤務することはないとわかっていても、転勤はいつも気が重くエネルギーがいるものである。もう住居の移転はないが、慣れ親しんだ校区を離れるのも寂しい別れの時である。



Vol. 27 おたん

Nice to meet you!!



原作：千葉ひろみ 画：大橋幸子

アクションプラン第2弾 授業を観に行こう！ 取組事例を紹介しよう！

この原稿依頼の話聞き、さっそく先日、参観授業を観に行きました。私は、授業を観に行く時間より、朝夕や昼休みに校内を歩き、備品を始めとする物品の配置状況を確認し、安全点検もしながら誰もいない教室に照明がついていないかといった、校内の状況を確認することが大切だと感じ実践してきました。しかし、授業中の子どもたちの様子をながめ、備品の活用状況を確認し、計画を考え創造することも必要だと感じました。実際に授業を「観て」「感じて」「考える」ことは、我々が積極的に学校運営へ参画していくうえで、とても重要なことだと気づきました。



浜田市立今福小学校 大野善功

今年度の『授業を観に行こう！』の理由は2つ。1つめは、今年度しか感じられないであろう“雰囲気の変化”を体感するため。2つめは、教室の明るさ（というか、使用中の蛍光灯の種類がこれでよいか。）が気になったため。

その行為を、それなりに表現するならば、『児童理解と環境整備』ということになるかもしれない。ただ、今の私にできることは、『統合に至るまでの、たくさんの人の仕事を無駄にしないこと。』（暫くコシ）だと思っている。（^-）

大田市立温泉津小学校 岡 里恵



【編集後記】

最近のCGアニメ映画はすごい。リアルな画質はもちろんだが、私はとくに、ストーリーに関心を寄せている。友情、絆、家族…といった、どれもじーんと考えさせられる内容となっているものが多い。とくに私が最近「おお…！」と感じたものは、『ヒックとドラゴン』だ。人権の視点でみると、とても考え深い内容である。噂だけで判断することの愚かさ、本物（正しい知識）を知ることの大切さを改めて感じる。

もちろん、子どもから大人まで純粋に楽しめる内容である。私にとって、とても考えさせられた映画だった。

D. I

